

知って安心「退院までの準備ガイドブック」 内容改定アンケート結果

(1) ページごとの意見

1. 「退院後はどんな生活をイメージしますか」(P.2~3)

- ・イメージより退院後はどうしますか？と問いかけの方が考えやすいのでは？
- ・題名を「今後どのようにしたら良いか、退院後の生活を一緒に考えよう」に変える。
- ・P3 黄色の背景が明るいと見るとチカチカします。
- ・「考えたこと、相談したことを書き留めてみましょう」とあって、相談内容メモが7Pにあるので、下に『→7ページ目を参照、19ページの入院日記を活用』とかあればわかりやすいです。
- ・ACPについて、コラムで紹介してはいかがでしょうか。
- ・タイトルが「(入院する前から)退院後の生活をイメージしてみましょう」などの言葉だと良いかと思えます。
- ・2ページの挿絵にあるように在宅でも引き続き点滴や傷の処置を行う、もしくは、そういう状況でも在宅医、訪問看護、介護のサービスを受け、自宅に帰ることができます、という内容は必要ないですか？
- ・P3 Q&A 「入院日⇨退院準備の始まり」「疑問があれば院内で相談」などフォントを変えてワンセンテンスの見出しをつけてはどうか。
- ・A.「介護保険サービスを利用されている方は、担当のケアマネジャーの事業所、電話番号を病院にお伝えください。」のような記載を入れていただきたく存じます。(病院側が介護保険を利用していることを知らずに、退院後の在宅生活について話し合われているケースが散見されたため、弊社では医療保険証や受信票入れにケアマネジャーの名刺を挟んでおくよう、本人・家族に依頼しています。しっかりとした家族がいる場合は問題ないのですが)
- ・良いと思いますが、退院に向けての相談窓口が文書だけでなくもう少しわかり易く見れると良いと思えます。
- ・介護保険をお使いの方向けにはケアマネージャーも相談先に加筆して頂くのはどうかとは思いました。(総合病院の医師の方の中には、在宅療養の情報が少なく、在宅は無理とおっしゃることが多いため)
- ・Q&A方式なので、わかりやすいと思えます。
- ・入院時に渡される「入院療養計画書」の中にP3の「いつ頃退院」のQ&Aについて入院期間や退院までの目安が明記されている時があります。
- ・イメージをすることは難しいと思えます。それよりは入院時から退院について考えておく必要がある、入院時から相談窓口を確認しておくなどを提示した方が良い。

2. 「どんな経過をたどるのでしょうか？」(P.4~5)

- ・病院から説明があるので、自分と関係ない話は混乱しやすいと思えます。フローチャートで必要なページにとべるようにされては。P9からとんでもよくわかりません。
- ・5頁のかかりつけ医・歯科医・薬剤師に関しては、連絡先或いは相談先の電話番号を入れる。
- ・P4 (がん)のほうにもイラストがあるほうが見やすいか？
- ・急性期病院の「身体の状態にあわせた生活の準備」も、がんと同じように前向きな表現やイラストの方がよいと思えます。
- ・1行目の「どんな経過をたどるのでしょうか？(急性期病院)」の急性期病院はがん以外としたほうが下の(がん)と区別がつくと思えます。コラム「かかりつけ医・歯科医・薬剤師をもちましょう」

通院していない場合のかかりつけ医の持ち方の説明があると良いと思います。

- ・自宅の構造に合わせて必要なリハビリを選択。
- ・自宅等の所で参考ページが示されると良いと思います。
- ・書き方として、だれでも回復期リハビリテーション病院に行かれるのかと勘違いされないように、但し書きがあるとなお良いのではと思います。
- ・各病院の特性のところで、文京区では、どの病院があてはまるのか具体例の病院を入れるとイメージしやすいかと思います。
- ・急性期病院から回復期リハ病院へ転院した場合最大で何カ月いられるのか、同じく地域包括ケア病棟へ転院した場合何カ月いられるのか、当件の場合も書いてあると目安になってよいと思いました。
- ・先に病院の種類（P.5の上段）があった方が読む側の流れとしては入りやすいかなと思います。どの病院がどれにあてはまるのか例でもあると。
- ・自分が今、どの（機能の）HPに入院しているのかわかるチェックボックスがあると良いかもしれません。
- ・病院の役割のところ、入院している病院がどれになるのか知る手段があるとよいのでは？
- ・ざっくりしすぎていて、イメージがしづらいと思います。がんの場合については、末期を想像してのことなのでしょうか？退院後、どこで生活するか、療養するかを提示した方が良いです。

3. 「退院後の不安チェックリスト」(P.6~7)

- ・このリストはメモを最初のページにせず自分の何がわからないのか考えてもらった方がよいと思います。誤嚥性肺炎コラムここではないと思います。
- ・題名を「退院後の不安チェックリストと、話し合い」にする。
- ・チェックリストの項目が太字の方が見やすい気がします。
- ・不安だけでなく、「どうしたいか、なにをしたいか」など前向きなチェックリストもあると良いかと思います。最初の項目で考えてもらっても良いかとも思います。
- ・P7「わからないこと」記入欄があってもよいかも。
- ・包括では退院支援の場合、状況経過がわからない方が急に相談に来所され生活支援提案をしていく事が多いです。P6~P8の記載がある相談は比較的円滑に支援提案が可能となり家族負担軽減が見込めます。出来れば医療機関（病棟看護師等）の助言に記載してもらえるとさらに支援がしやすくなるので御一考していただければありがたいです。
- ・P.6 自宅に戻ってからのことは…この後に、「担当のケアマネジャー」も入れていただけると嬉しいです。
- ・出来れば医師・看護師だけの記載でなく、相談窓口またはソーシャルワーカー等の記載もあったらと感じました。
- ・項目別に分かれているのでチェックしやすいと思います。
- ・金銭管理の項目があれば。Ent後、気をつけること（例えば、禁忌体制とか）はどのようなことか。
- ・現金の引き出し、払込等、日常金銭管理。頻尿、リハパン、パッドの相談。くつ、足の爪の手入れについての相談。緊急時の通報。
- ・退院までに確認することや、準備することなどと連動して、具体的にチェックができると良い。

4. 「住み慣れた自宅での療養生活を考えてみましょう」(P. 8)

- ・ P14 へとはいいと思います。もっと大きい字で。
- ・ 家族は家族でまとめたほうがわかりやすいのでは？
- ・ 『家族は自身の生活にあわせて介護や介助ができる』に、『仕事を持っている家族も』、とか、『仕事をしながら』などのニュアンスがあるとよいのでは。介護離職を防ぐことにつながると思う。
- ・ デメリットの方が目立つようにしてはどうか。
- ・ 在宅療養の項目で経済的負担が大きいのではないか、の箇所から、経済的保障制度に飛べるようにして頂くことが可能なら安心できるのかもと考えます。
- ・ 自宅での療養生活をイメージしやすいです。
- ・ 往診の説明が欲しい。夜間の不安があるのではないか。
- ・ 大まかな病名、ケースごとに提示するなど、工夫が必要かと思います。

5. 「在宅療養を支える専門スタッフ」(P. 9)

- ・ 専門スタッフについては理解できるが、誰が仲介して各々の専門家に相談するのか？
- ・ 本人家族のイラストに医師・看護師がいるのはなぜですか？
- ・ 病院の医師や看護師、MSW と連携しながら在宅に向けていくことがうまく表現できればと思います。在宅になると病院と切れてしまうイメージを持っている方もいるので。スペース的に難しそうですがご検討ください。
- ・ ケアマネージャーの説明に、配食など生活面での支援のご相談も可能なことがわかると有難いです。
- ・ 図の中に包括入れてもらってもいいですか。一応連携している組織ということで。

6. 「あなたの主な相談窓口」(P. 10～13)

- ・ 自分にあった相談窓口がわかりづらいです。
- ・ 急にフォントが変わったのが見づらい。丸ゴシックのままでいいのでは。ゴシック使いにする理由があるのなら、強調する意味でも四角で困ってもいいのでは。次ページもそうですか。
- ・ 各高齢者あんしん相談センターの対応住所を追記していただけますと、患者さんの介護保険申請や相談等案内に使用できるようになると思います。今のままですと利用できる場面が少ないと思われまます。
- ・ P. 11 文京区の HP に日常生活圏域の具体的な町名一覧が載っていることのアナウンス文があるとよりわかりやすいとのこと。
- ・ 入院先の相談窓口を書き込めるようにしてほしい。
- ・ P. 12～13 はもっと説明を略して。
- ・ 「病院の相談室」の後に、多くの病院には…の説明があつてから緑○の例がある方が良いと思います。「高齢者に関する相談窓口」は「区が設置する高齢者相談窓口」に代えては如何でしょう。こちらも、「高齢者あんしん相談センター」の後に、高齢者が住み慣れた…の説明をして例を挙げると良いかと思います。ただし、「高齢者に関する相談」は漠然とし過ぎるので削除で良いかと。
- ・ P11 本富士の住所変更。生活圏域があると注意書きをしてほしい。でないと二度手間になることがある。
- ・ 連絡先等は後ろの方でも良いかと思います。

7. 「介護保険サービスを利用したいとき」(P. 14~15)

- ・自分にあったサービスがわかりづらいです。
- ・医療保険と介護保険、障害福祉サービスの違いの説明を入れる。
- ・P15. 在宅サービスに、福祉用具の貸与、購入、住宅改修もあることがわかるとより良い。また、「詳しくは『わたしたちの介護保険』の資料を参照してください」などの文章があるとよりわかりやすいとのことです(限度額のことなど確認することもあるので)。
- ・15 ページ 文字がごちゃごちゃしていて読みにくいので見出しの背景に色を付けるなどするとよいと思います。ケアマネジャーについての説明がほしい。
- ・申請時に必要なもの(主治医の名前がわかるもの、介護保険証)を記載して欲しい。
- ・申請のタイミングについて記載が欲しい。
- ・P. 14~15 ここも詳しすぎる。
- ・認定後の流れもあると良いと思います。
- ・訪問介護の説明の中に、できることに一部制約があることも理解して頂くような記載があったら嬉しいです。
- ・施設サービスのところでグループホームもあるといいと思います。
- ・介護保険のサービスについてどのサービスが使えるのかと聞いてくる人がいるのですが、認定を受ければ使える権利があるサービスは使いたいと思っています。介護保険のサービスはCMと相談の上、日常生活を過ごす上で必要なサービスを利用して頂く仕組みになっていることを知らせてほしいです。
- ・P14 結果通知がきたあとどうすれば良いかまで書いてあるとよいと思います。
- ・書ききれないのだと思いますが、地域密着型サービスの欄をもう少し種類を足して詳しいと良いと思います。
- ・P15 看護小規模多機能もあるとよい。
- ・介護保険とは何かについて、説明が必要かと思います。申請だけでなく、認定を受ける必要があるということの記載があると良い。

8. 「障害福祉サービスを利用したいとき」(P. 16~17)

- ・申請時に必要なもの(持っていくもの)があるので、申請時や来庁前に電話連絡を入れるなどの案内を入れたほうが良い。
- ・P. 16~17 ここも略して。
- ・介護保険の認定がある場合、障害福祉サービスがどこまで利用可能か等の説明があると良いかと思います。
- ・障害(手帳)がある高齢者の場合はどうなるのか、どうするのが書いてあるとよいと思います。(どちらが優先とか、両方使える場合とかありますが、詳しくなくてよいので)
- ・P17 介護保険サービスとの関係について少し補足あるとよいのでは。
- ・介護保険と同様、認定を受ける必要があるということの記載があると良い。

9. 「その他のサービスの利用も考えてみませんか」(P. 18~19)

- ・社協の内容をもう少し詳しくわかりやすくされてはいかがですか? 入院日記いりますか?
- ・P18 電話番号が太文字と細文字の違いは何か?
- ・連絡先のみで良い
- ・「高齢者自立支援」というワードがありますが、なんのことかわからない。こちらの説明もあるとよいと思います。利用できる制度として。

10. 「退院までに確認すること」 (P. 20)
<ul style="list-style-type: none"> ・ P6, 7 とまとめたほうがよいのでは？ ・ 退院の時にかかりつけ医師やかかりつけ薬局を見つけたいという方はあまりいないかもしれません。 ・ P6 退院後の不安チェックリストと対になるように表現してはいかがでしょうか。病院（けが）に関して、退院後の注意点はわかりますか 退院後も生活ができるよう、住まいの状況は整いましたか 食事や入浴、排せつなど、日常生活で困ることはありませんか 困った時に頼れる人はいますか。使えるサービスは準備できていますか。など、疑問形の方がやさしいようです。 ・ 「わたしが大切にしたいこと」はもう少し手前の方がよいと思います。P2 もしくは、P7 で他者に相談する前などはいかがでしょうか。 ・ アンケート 3 と同様に記載してあると生活支援相談を受ける側としてありがたい項目です。 ・ チェックリストの「ベッド等福祉用具のレンタル」に“介護用”ベッドの方がイメージがつきやすいかもしれません。杖の表記も。 ・ 退院までの確認することが少ないと思います。普段相談が多い項目をチェックリストと連動させるなどが良い。
11. 「緊急連絡先」 (P. 21)
<ul style="list-style-type: none"> ・ だれがみるための緊急連絡先ですか？ ・ アンケート 3 と同様に記載してあると生活支援相談を受ける側としてありがたい項目です。

(2) 印刷物形態について

問 1. 当冊子の大きさ (B5 判) について

ア. 大きすぎる	2
イ. 適切	19
ウ. 小さすぎる	4
エ. 未回答	1

問 2. 当冊子のページ数 (24 頁・表裏両面) について

ア. 多すぎる	4
イ. 適切	19
ウ. 少なすぎる	0
エ. 未回答	3

(3) その他

<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者さん、スタッフ両方が使いやすいものとなると難しいですね。 ・ 服薬について、本人或いは家族・介護者がメモ書きできるような、ページも作ってほしい。 ・ 全体的に色合いの統一感やフォント・大きさの統一感がなく複数人で作成した感が見られます。統一感があるともう少し見やすくなるのでは？ ・ 後半部分になると字が増してくる。 ・ 所々の黄色がチカチカする。
--

- ・P10、P11の丸ゴシック太字「など」がすごく気になる。特にP11の「など」の周りの空白は？
- ・この冊子にIC用紙なども一緒に保存するなどのように活用するならば、A4サイズでもよいのかと思います。
- ・ページ数としては、文京区のサービスの情報が一括してあると考えれば適切かと思いますが、情報とチェックリスト・自分で記載する項目を分けたほうが見やすいのではないかと思います。
- ・当院の都合で恐縮ですが、巻末の病院名につきましては東京医科歯科大学病院と変更していただけますと幸いです。
- ・タイトルが「退院までの準備ガイドブック」なので、入院中もしくは入院する人にしか渡せないと思うスタッフもいます。外来時点でも利用できる内容なので、退院に限定しないタイトルを検討できないかとのことでした。
- ・書類全般がA4なので同じ大きさのほうが整理しやすいと思います。A4になれば同じフォントで情報量が増やせるのではないかと思います。
- ・大まかな流れがわかっていいと思います。特に病院での配布だけではなく、高齢者あんしん相談センターなどに置くのも良いのではと思いました。
- ・P20「わたしが大切にしたいこと」はよいことだと思いました。変えたくないこと、大切にしたいことは訪問看護師も知りたいところです。
- ・内容は細かなところまで解説されており、わかりやすい。
- ・この冊子が活用されていないのであれば、周知の方法を検討する必要がある。包括に配架するなど。
- ・例えば対象を明確にして、「家族の動きの事例」「本人（独居）の動きの事例」を掲載してみてもどうか。
- ・とても詳しく、よくできていると思うが、読み手としてはもう少しボリュームを落とした方がよいと感じた。
- ・特に伝えたいところが目立つようにしてほしい。
- ・本人用はこのくらいの大きさが良いと思いますが、包括相談に来るのはほとんどの場合が、娘・もしくは子の配偶者（嫁）が多いようなので、一般的なハンドバックに入るサイズがあると持ち運びにも便利なような気がします。
- ・表紙の文京区をもっと小さくしてもよいのでは。
- ・全体の枚数を減らすために項目6,7,8はかなり内容は減らして（必要な人には問い合わせできるよう連絡先くらいで）。
- ・*で記載されている参照事項等の文字が細く小さいので、高齢者にも見やすい方がよいと思います。
- ・あるととても便利だと思いました。
- ・いろいろなサービスや相談窓口がごちゃごちゃ書かれていると相談先が多すぎて逆に不安になりそうです。
- ・「役立つ資料があります」「資料だけ欲しい方もどうぞ」のような文章があるとよいのではないかと思います。お仕事を忙しい間をぬって来所・Telされる方も少なくないです。「とりあえず資料を」という方、若い方はご自身で調べて考えてから相談に来られることも多い印象です。時間を有効に使っていただけることで、余裕も生まれるのではないかと思います。担当包括とかじゃなくても「ちょっと近くに行くからもらってこよう」みたいな。

- 表面に自分の名前を記入する欄があると良いのではないのでしょうか。入院中に相談員と内容を共有しやすいと思います。
- 入院時に配布してもらうなど、積極的に活用してもらえるよう病院に周知されるとよいと思います。
- 大きさは A4 程度が良い。
- 退院までのプロセスが書き込めると良い。
- Q&A 方式など、利用者にとってわかりやすい形式の方が良い。
- 最終ページの「私が大切にしたいこと」が ACP の位置づけと思われるが、もう少し比重を大きくした方が良い。
- 入退院については、単発の場合と、がん治療など繰り返す場合もある。単発の入院だけでなく、普段から書き込める ACP やエンディングノートなどにも使えるものが良い。